

8/13
早稲田

川内 ヨウ素剤3割未配布

再稼働した九州電力川内原発1号機が立地する鹿児島県薩摩川内市で、重大事故時の甲状腺被ばくを防ぐ安定ヨウ素剤の事前配布が、対象住民の約二割にまだ行き渡っていない。ヨウ素剤の受け取りに必要な、医師が使用法などを説明する配布会に出席していない住民がいるため。市は未配布世帯を戸別訪問して十一月ごろに開く配布会への出席を促す方針だ。

国は東京電力福島第一原発事故で、ヨウ素剤の配布に時間がかかったことを教訓に、原発5^キ圏に住む三歳以上の住民への事前配布を決めた。県と市は昨年七月以降、医師らが立ち会う配布会を九回開催したが、対象住民約四千六百人のうち、配布できたのは約七割の約三千二百人だった。

市は「必要性を十分理解して

原発5^キ圏 住民理解進まず

「ない可能性がある」とみており、今月下旬から十月末にかけて、市職員が未配布の住民がいる七百五十世帯を順次訪問する。ヨウ素剤の効用などを説明し、配布会へ出席するよう求める。

県薬務課の満留裕己課長も「副作用などヨウ素剤への疑問や不安を解消し、配布率の向上に努めたい」としている。

崎山比早子・元放射線医学総合研究所主任研究官は「ヨウ素剤は服用のタイミングを逃すと効果が薄れる。学校や職場などにも配備すべきだ」と訴えている。

川内1号機は再稼働後十二日午前で二十四時間が経過したが、九電によると異常はないとしている。また九電は十四日に発電と送電を始めると正式に発表した。